

渡辺復興大臣宮城県訪問ぶら下がり記者会見録
(令和元年6月18日(火) 16:10~16:15 於) 気仙沼市)

1. 発言要旨

本日は、菅原市長に御同行いただきまして、大島大橋、八葉水産、そして、この東日本大震災遺構・伝承館を視察し、気仙沼市の復興の現状や課題についてお話をお伺いしたところであります。

視察を通じて、気仙沼の復興は、大島大橋の完成に象徴されるように、着実に前に進んでいると感じました。また、産業面でも、八葉水産のように津波による壊滅的な被害を乗り越えて、力強く再建している姿を感じることができました。

その一方で、市長からもいろいろな御要望を伺いましたが、気仙沼の復興には、ハード事業の遅れやマンパワーの不足など、さまざまな課題が残っております。

こうした現場の実態を踏まえながら、今後とも気仙沼復興のため、引き続き必要な支援をしていく所存でございます。

また、この伝承館の視察を通じ、風化の防止も重要なテーマであると、改めて感じた次第であります。あの震災がもたらした悲劇を忘れることなく、今後も復興にしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

2. 質疑応答

(問) 風化防止に力をとということでしたが、阪神大震災でもそうですけども、震災遺構というものは、当初は多くのお客さんが来られ見られています。それがやはり月日の経過とともに風化して、お客さんが減っている。ここも今でこそ3万1,000人と多くの人を集めていますけれども、持続的な支援と言うと変な話なのかもしれませんが、先ほど大臣がおっしゃったように、風化、忘れさせないための努力、これは国としてはどういうふうに考えていらっしゃるか、お言葉をもらっていいですか。

(答) 基本的には、時間とともに風化は進んでいくというのは一般的であります。しかし、今回の東日本大震災は、まさに未曾有の災害であったということでありまして、こういった震災の状況を忘れないためにも、このような伝承館、大変私は必要だというふうに思っております。

こういった伝承館で、映像を見ることによって、私は先ほど2011年3月11日の状況が、また、つぶさに蘇ったわけでありまして。そのように、ここに来ることによって、被災された皆さん方の状況、そしてまたこの復興にかける思いが来館した方にしっかりと認識されていくのではないかと、そのように思いますので、伝承

館の支援に対しては、今後ともしっかりと応援をしていきたいというふうに思います。

(問) 支援というのは、具体的にどういうことをおっしゃったんですか。

(答) 具体的には、例えばこういう災害があった場所について、常に私どもからの情報発信ということも考えられるわけでありまして。少なくとも、やはり情報を発信しない限り、ここにこの存在があるということとはわかりません。こういった意味においては、復興庁においても、しっかりとこの情報発信に努めていきたいと、そのように思います。

(問) 震災遺構は整備のときには国の補助金がありますがけれども、それ以降は自治体であったり当事者に丸投げと言うと言葉が悪いかもしれませんが、丸投げ状態です。そうすることで、たとえ情報発信があっても維持できない状況になるかもしれないという現実もあるんですけれども、それを最初だけではなく、継続的に支えていく、徐々に減っていくにしても、例えば継続性を持って国が支援していくというような考えは、今後はないんでしょうか。

(答) この問題について私どもは、あと2年近くにおいて、復興庁の組織のあり方をどのようにするかということは、基本方針の見直しの中に示したわけでありまして。それは、少なくとも現在の状況の中で、政治のリーダーシップを持って、復興庁のような縦割りを排した組織をつくっていくんだということを明記したわけでありまして。

さらに、それに伴って、さまざまな復興に対する進捗状況を勘案しながら、今年中にその方向性を示していきたいということで、今日もこういう形で、地元のさまざまな課題について、じかにお話を伺ってきたところであります。

(問) ということは、その震災遺構に対してのことも盛り込まれる可能性はあるんですか。

(答) それは、これから検討していく内容でありまして、今、明確な形でお答えすることはできませんけれども、必要性というものは、私自身は感じております。

(問) 創生期間も2年をもう切っていますが、そうした中で、大臣自身は、こういった視察を通じて、それ以降の支援というのはどのように、今、感じていらっしゃるのでしょうか。

(答) まずは、復興・創生期間というものは2年あります。その期間においては、やれるべきことは全てやっていただきたい、そのように思っております。その後については、先ほども申し上げましたとおり、まず復興庁の組織がどうあるべきかということ、今年中に方向性を示していく。さらには、さまざまな事業がござい

ます。例えば産業・生業の問題、コミュニティの問題、そしてこのような風化防止の問題、こういったものを踏まえて、どのような形で進めていくかということ、年内に示していきたいというふうに思っています。

(以 上)